

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 columns: 事業所番号 (0172000945), 法人名 (有限会社 Human-Effort), 事業所名 (グループホーム 自由の樹), 所在地 (北海道小樽市最上1丁目36-4), 自己評価作成日 (平成30年12月28日), 評価結果市町村受理日 (平成31年3月25日)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

便利な住宅街と天狗山、川に囲まれた自然豊かな環境。四季折々の表情を見せる天狗山。そのふもとにある当ホームは季節の移り変わりを身近に感じられる施設です。職員も明るく、入居者様に笑顔溢れる生活を送っていただけるよう努めております。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

Table with 2 columns: 基本情報リンク先URL (http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action kouhyou_detail 2018 02 2_kihon=true&JigyosyoCd=0172000945-00&PrefCd=01&VersionCd=022)

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 columns: 評価機関名 (特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット), 所在地 (札幌市中央区南6条西1丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401), 訪問調査日 (平成31年2月19日)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

小樽の景勝地である天狗山を背景に「グループホーム自由の樹」は立地している。バス停から2分程で、商店や住宅が建ち並んでいる。町内会の行事案内はあるが、利用者の状態もありなかなか参加が難しい状況にある。落ち着いたら、活動意欲や五感刺激に繋がる場面作りを検討している。リビングの窓からはクルミの立木等が眺められ、四季の移り変わりを目の当たりにできる。利用者は、それぞれが出来ること、やって見たいことを、家事や趣味活動に発揮し、出来ないことは職員の支援を受けながら行っている。望めば人生の最終章まで自分らしく過ごせる環境にあり、利用者向きあう時は、職員自身がされたい介護を念頭に置いた支援が続けられている。31年度の方針として、利用者や家族の意向、選択の尊重を掲げており、実践に向けた取り組みが始まっている。

Table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Rows 56-62 detailing service outcomes and staff performance.

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	研修、会議等で、特に「思いやりの心」について職員と話し合い、実践している。	事業所独自の理念を策定し、事業所内の掲示やパンフレット、「自由の樹便り」にも記載して共通認識に繋げている。理念の冒頭に出てくる「思いやりの心」に焦点を当てたケアサービスに取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	明峰高校の社会体験学習、最上保育園の来訪を受け入れ、地域の一人として交流できるよう努めている。	町内会からカラオケや餅つき等の案内があるが、利用者の状態もあり参加ができていない。昨年の震災では、町内会長が安否確認で来訪があり、また、運営推進会議には、毎回町内会役員の出席を得ている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通じて勉強会を行い、認知症についてのご理解をいただけるよう努めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現況の報告を行い、地域の現状を教えていただいています。また、レクリエーションの余興などでのアドバイスもいただきます。	会議は年6回の開催を計画し、関係者の参加の下順次行われている。身体拘束防止や対策、レクリエーション等について意見交換があり、得られた助言や情報をケアサービスの向上に反映できるよう努めている。	町内会や家族の参加が固定されており、幅広い声かけによる参加への取り組みに期待したい。併せて、議事録に利用者の現状や事業所の活動報告の記載も望まれる。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	判断に迷う場合などはすぐに相談させていただいています。広い見解の回答をいただけます。	事故報告などの提出時は、管理者が出向いて担当者に手渡し、助言が得られている。集団指導に於いても、災害時対策や身体拘束廃止等の情報を運営に生かしている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	今年度より身体拘束廃止委員会を運営推進会議で実施しており、職員は内部、外部の研修にも参加しております。不適切な対応を発見した場合は個別に面談をしている。	身体拘束廃止や虐待防止については、運営推進会議の中で委員会を開催し、指針を基に現状や取り組みを説明している。職員は内・外の研修等で適切なケアへの共通理解に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員は研修、会議等で防止について学んでいます。上記同様、個別面談にて対応方法のOJTを行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内研修を全職員が受講。理解が進むようにしている。自立支援事業を利用されている方もいます。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は利用契約書を読み合わせ、疑問、不明点を確認し契約を行っている。解約時も同様に不明点がないかなどの確認を行っている。			
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時、連絡の際、プラン更新の際はご意見、ご要望を伺い、重要な意見は全職員で共有できるよう、会議等を行っている。	家族は、来訪時や電話、ケアプラン作成時に意見や要望を伝えている。内容は職員の共有とし、利用者や家族が望む支援に努めている。家族の要望で自宅まで利用者を送迎した事例がある。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員間で意見交換した結果の物であれば極力反映させるようにしている。難しいものは長期課題としている。	職員は、運営やケアに対して常に意見や提案を表し、職員間で検討したり、管理者に報告している。代表者による年2回の個人面談で出された意見や要望を反映した職場作りに努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格、勤続年数、役職に合わせた給与体制をとっている。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内研修を全社員対象で行い知識の向上に努めている。また、施設内担当業務を割り当て、施設全体の運営が理解できていくようにしている。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会の相互間研修を利用し情報交換を行っている。管理職は外部研修を通じ、他施設の見習うべき点を習得できるよう努めている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	契約前のアセスメントにおいて、医療従事者、ワーカーなどから情報もらい、利用者様の情報を踏まえうえで、職員から積極的に関わるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約前のホーム見学を推奨し、必ず見ていただいてから判断して頂いている。また、今後どのように生活したいか、してもらいたいのか等、積極的に関わっている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	上記同様、利用者様の希望、ご家族様の希望を職員間で共有し、利用者、ご家族様が求める事に集中してサービスを組み立てる様努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員には、積極的な介助自体が仕事ではなく、介助する部分を見つける事が仕事である事を伝え、出来る事はしてもらう介助を推奨している。お互いが助け合う環境に努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	可能な限りの受診、面会をして頂き、フォローをするのが我々である。という立場でいる。ご家族様へは感謝の言葉を伝えるようにしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様の協力外出、ご友人の面会を実施している。	会話から馴染みの店で買い物したいとの要望があり同行している。家族の支援で外泊、外食、受診等が得られている。面会で訪れる方を快く出迎え、居室でゆっくりできるよう努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が間に入らずとも、利用者様同士で、声を掛け合う環境が出来ている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了ごも、ご相談などいただける環境を用意している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様本人の意向を第一に、ご家族様の意向を第二に考えプランを作成している。意思疎通が難しい場合はご家族様の意向を第一にしている。	仏壇のご飯やお水の供えが難しくなった時には、職員が代行して利用者の思いに応えている。必ず利用者の意向を確認し、「帰りたい」との要望は職員の共有とし、ケアプランに反映している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様の会話、前サービス事業者、前ケアマネ、ご家族様からの聴取で、プランに反映している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	各職員の現状把握を総合し、利用者一人一人の状況を把握している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者本位を基本に、ご家族様、医師、看護師、職員の意見も反映し計画作成担当が原案を作り、職員間で検討しプランを作成している。	定期見直しは3ヶ月毎に行い、家族、医療関係者、職員の意見や現状のケアプランを基に、職員全員で評価や課題の検討を行っている。利用者のできる事、やりたい事を主体としたケアプランを作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録、申し送り、担当者会議等で得られた情報を踏まえプラン作成に反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々で生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族様の意向を確認し、その時々で必要と思われるサービスをご相談させていただくなど、医師、看護師らと連携している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	なかなか実状に添えていない。社会体験の実習高校生、保育園の来訪などを行っている。今後は幅広く実施してゆきたい。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診医等も含め、ご家族様の意向を大切に医療機関との情報交換を行っている。	利用者や家族が希望する医療機関の受診を尊重している。月2回の協力医による訪問診療と週2回の法人看護職員による健康チェックがあり、状態変化にはすぐ対応ができる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ホーム看護師と24時間連絡体制が整っており、必要な処置、対応の指示をもらえる様になっている。受診、往診の際の助言、申告も行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者、ご家族様の安心を得るため、出来る限りの面会、説明を受け、早期退院を促している。医療機関との関係も良好を保つよう努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所で行えることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	契約時の説明、他、重度化した場合などに医師、看護師、ご家族様と十分話し合いをし、終末期のご要望を伺い皆で方針を共有出来るよう努めている。	入居時に重度化した場合に於ける指針で看取りに関する方針を説明し、同意を得ている。重篤時には、医師から家族に状態の説明があり、意思確認後に尊厳ある看取り支援となる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ホーム看護師を中心に救急救命、緊急時、急変時の対応の研修を行っている。AEDも職員全員が使用できる状況を作っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防立ち会いの避難訓練、自主訓練を行い、運営推進会議でも協力を求めている。	年2回、消防署や運営推進会議の参加者の協力を得て、地震火災を含む夜間想定訓練を計画し、1回目が終了している。都度自主訓練も行い、防災意識を高め災害時備蓄品も随時用意している。	夜間専門職員の夜間想定訓練が早急に望まれる。さらに入浴や排泄時など、あらゆる場面想定での対応策と、停電、断水を含む自然災害対策の見直しに期待する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	研修を通じ、尊厳について勉強している。実践出来ない場面については都度面談を行い実施を促している。	法人研修や勉強会等で、接遇の正しいあり方の理解に努めている。職員は、自分達がされて嫌なことはせず、常に気持ちにより添うことを念頭にケアサービスに努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の意見を聞けるよう、静かにじっくりと話せる時間を設け伺い、自己決定できる場面を増やす様努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	待つことも介護職員の仕事である事を職員に実践してもらい、利用者のペースを守り、今何をしたいのか聞く事が出来る環境づくりを行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日々の整容に気を配り、化粧品購入や髪染め、整髪等の支援を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	見た目も食事の醍醐味として、ミキサー食や刻み食でも盛り付けに気を配り、利用者にも参加してもらいながら食事を楽しんでいただいている。	系列の食材会社から献立と食材が届くが、アレンジをしたり、寿司セットの購入、スイーツバイキングを取り入れるなど、外出を好まない利用者にも楽しめる工夫をしている。普段の食事も、一緒に作業しながら食卓を囲んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量、食事量を記録し、満たない場合は拒否されない限りは職員が支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	拒否が強い方も居られ一律にはいかないが支援で出来る方には実施して頂いている。また、訪問歯科医と相談させていただいている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	基本的には利用者の意思を尊重している。支援が必要な方へは誘導し、拒否の強い方へは、人を変え言葉を換え誘導している。	布下着の着用を基本としているが、利用者の意向や職員の提案により、衛生用品は各自使い分けている。排泄チェック表を参考に声かけや誘導、見守りを行い、トイレでの排泄に繋げている。職員の支援により、布下着の着用が可能になったケースがある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	当ホーム看護師へ報告し指示に従い対応している。水分量、下剤の調整なども行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者様の希望を最優先にし、拒否の強い方は人を変え言葉を換え対応している。希望者には同性介助も実施している。	入浴は週2回を基本としているが、回数や順番、時間帯、同性介助の要望には、柔軟に対応している。職員の支援で、利用者は湯船に入りリラックスした中から本音が聞かれ、ケアプランに反映することもある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様の意向を最優先し、休みたい時に休み、起きたい時には起きていただけるよう対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師指導の元、指導している。お薬手帳、説明書は確認できるよう保管している。異変がみられた場合は看護師に報告し対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除、食事の盛り付け等の家事、将棋、卓球、手芸等、楽しめる事も実施している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	レクリエーションでの外出の他、ご家族様の協力でも外出を楽しまれる方も居ります。個別受診の際にドライブなどにも行かれています。	花見など全体での外出もあるが、周辺の散歩や馴染みの店での買い物、受診帰りに海を眺めるなど、個別支援が多くなっている。家族の外出支援もあり、気分転換に繋げている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	少額ではあるが、ご家族様の協力を得て所持されている方がいます。また、買い物の際はご自分で支払いをして頂く事もあります。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご希望があれば、電話を使用していただいています。また、ご家族様からの電話の取次ぎで居室でお話しされたりもします。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔に努めているフロアに季節感のある飾付を行い、遮光カーテンを取り入れ光の調節を実施している。TVの音量や、温度、湿度の調整も行っている。	事業所全体が掲示物や飾り物が少なくすっきりした印象である。今後、ボードを用意し、利用者の作品等を掲示する予定である。温湿度や清掃、騒音、採光にも配慮があり、落ち着いたある住環境である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事以外では席は固定せず、自由に過ごしていただけるよう努めている。ソファで一人で過ごす事も出来、職員も無理に会話に誘う事をしないよう努めている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	基本的には利用者様、ご家族様の意向でセッティングして頂いている。また、馴染みの品などを持参していただき落ち着けるよう工夫している。	入居時には、馴染みの調度品や生活用品の持ち込みを勧めている。約6畳ある居室は、動線に配慮して家具が置かれ、趣味の物や写真を飾り、利用者が寛げる環境を作っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下には手すりがあり、歩行時の支援に合っており、車椅子移動もスムーズに行くよう通りを確保している。しようとしている事には見守る事を徹底している。		